

<授業実践2> 「現代の国語」書くこと

1 単元名

三角ロジックを用いて筋道の通った文章を書こう

2 指導目標

(1) 単元の目標

- ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解することができる。〔知識及び技能〕(2) のア)
- ・読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B「書くこと」(1) のイ)
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

(2) 言語活動

ア 言語活動

「自立」をテーマとした2種類の文章を踏まえて、自分の意見や考えを構築し、意見文を書く活動。

イ 言語活動のねらい

情報を適切に選び、自身の考えが的確に伝わる文章を書くために、「主張」「根拠」「理由付け」を区別して捉えることを意識させたい。また、指摘や助言をし合うことで、自身の思考や文章の特長を捉えたり、他者のよい点を自分の作品に取り入れてより充実させたりできるようにしたい。

(3) 教材

ア 教材

鷲田 清一「真の自立とは」、伊藤 亜紗「共鳴し引き出される力」

(いずれも『精選現代の国語』東京書籍)

イ 教材観

「自立」という言葉を手がかりにして、他者との関係をどう構築しつなげていくかを考えることができる評論である。2編の評論の共通点や相違点を読み取ることを通して、根拠や理由付けが変われば主張も変わることを学び、筋道の通った文章を書く際の考え方の基礎を身に付けることができると思う。

(4) 学習者観

振り返りシートやまとめレポート、感想文等、内容や意見を記述する機会が多いが、自分の主張とその根拠が結び付いていなかったり、その因果関係に飛躍があったりする生徒が多い。自分の記述について見通しを立てさせ、それを言語化する力を身に付けさせたい。

(5) 主体的・対話的で深い学びの工夫

論理を構成する段階から他者の視点を取り入れ、順次助言や指摘を受けながら自分の主張を構築していけるように計画した。また、文章化した後に、単元全体を通じて、筋道の通った文章を書くということについて、学びや気づきを振り返る時間を設定した。

3 観点別学習状況の評価

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。	「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。	読み手の助言や推敲を通して、自分の考えや事柄が的確に伝わるように、表現を工夫しようと粘り強く取り組み、自らの学習を改善しようとしている。

(2) 評価方法

ア 知識・技能

定期考査において評価する。

イ 思考・判断・表現（書くこと）

ワークシートの記述によって評価する。

	評価A	評価B	評価C
主張・根拠・理由の位置付けが適切で、相互に関連している。(関連性)	主張・根拠・理由の位置付けが適切で、相互に一貫している。	主張・根拠・理由の位置付けが適切で、相互に関連している。	主張・根拠・理由に内容を当てはめて考えている。
主張・根拠・理由の内容が具体的である。(具体性)	主張・根拠・理由の内容が具体的で充実しており、説得力がある。	主張・根拠・理由の内容が具体的である。	主張・根拠・理由を記述している。

ウ 主体的に学習に取り組む態度

三角ロジック（以下、「ロジック」）の変容と、活動後の振り返りシートの記述によって評価する。

	評価A	評価B	評価C
助言などを生かして情報を整理し、考えが的確に伝わるように推敲している。(α)	助言などを生かして自分の記述を改善し、内容をより充実させようとしている。	助言などを生かして、自分の記述を改善しようとしている。	自分の記述を改善しようとしている。
活動を振り返り、自分の考えが的確に伝わる文章を書くための工夫をしようとしている。(β)	考えが的確に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に理解し、工夫しようとしている。	考えが的確に伝わる文章を書くためのポイントを理解し、工夫しようとしている。	考えが的確に伝わるよう、工夫しようとしている。

※ α・βは、それぞれ「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」とする。

4 単元の指導計画（配当8時間）

次 (時間)	学習活動	言語活動における指導上の留意点 *生徒への支援の手だて	評価上の留意点 ◇観点 □点検・確認■分析 *「努力を要する状況」と評価した生徒への支援の手だて
第1次 (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 「真の自立とは」「共鳴し引き出される力」の本文を通読し、内容を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ロイロノート（ロイロノート・スクール（株式会社Loilo、以下「ロイロノート」と表記）を活用して、「ロジック」の練習をさせる。 一般論との比較から筆者の主張が導かれているので、その区別を意識しながら、筆者の主張を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇（思） □記述の点検（ロイロノート） ◇（知）（思） □記述の点検（ノート、ワークシート）
第2次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> 「ロジック」を用いて、意見を構築する。 作成した「ロジック」を生徒同士で確認し合い、論理が適切か、分かりにくい部分がないか、などを助言する。 助言を基に修正し、ロイロノートの「提出箱」に提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「教科書の本文における『自立』の内容をふまえて、今後、他者とのように共生していきたいか。」というテーマで、「ロジック」を作成させる。 *読んだ2編の評論の筆者の考えを根拠にさせる。理由付けを自分に引き寄せて考えさせる。 複数の生徒から助言や指摘が得られるように、時間を区切って交流させる。 助言を踏まえて、「ロジック」を修正させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇（思） □行動の観察（机間指導） ◇（思）（態） ■記述の分析（ロイロノート）
第3次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 作成した三角ロジックを活用して、意見文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 作成した「ロジック」を適切に文章化することを意識させる。 振り返りをして、活動を通して学んだ点を確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇（思）（態） □記述の確認（ロイロノート）

5 本時の指導計画

(1) 本時の具体的な目標

三角ロジックを用いて、自分の主張を適切に組み立てることができる。

(2) 本時の具体的な評価規準

三角ロジックを用いて、自分の主張を適切に組み立てている。

(3) 本時（全8時間中の7時間目）の指導計画

学習段階	学習内容	学習活動	言語活動における指導上の留意点
導入 (5分)	・ 本時の学習内容を知る。	①単元の目標と言語活動について確認する。	①それぞれが作成した「ロジック」を相互評価し、より説得力のある論理を組み立てることを伝える。
展開 (40分)	・ 相互評価をする。 ・ 助言を基に「ロジック」を修正し、提出する。	②他の学習者が作成した「ロジック」を読み、コメント用のカードに助言を書く。 ③助言を踏まえて、「ロジック」を修正する。初稿・コメント用カード・修正稿をつなげて、ロイロノートの「提出箱」に提出する。	②ロイロノート上に作成した「ロジック」のカードを複製させる。コメント用のカードを配付し、他の生徒から助言を記述してもらうよう伝える。 論理が適切か、分かりにくい部分がないか、具体性があるかなど、助言や指摘をし合う。よいと思ったことも積極的に伝えさせる。意図が適切に伝わるような記述を心がけさせる。 ③助言を基に、複製しておいた「ロジック」のカードを修正させる。
終結 (5分)	・ 次時の学習内容を確認する。	④作成したロジックを活用して、自分の考えを文章化することを知る。	④根拠・理由付けを踏まえて主張を述べるという形を意識させる。

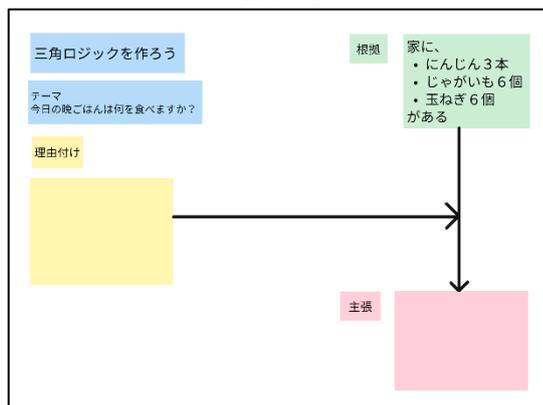
6 研究の実際と考察

(1) 言語活動に至るまでの準備

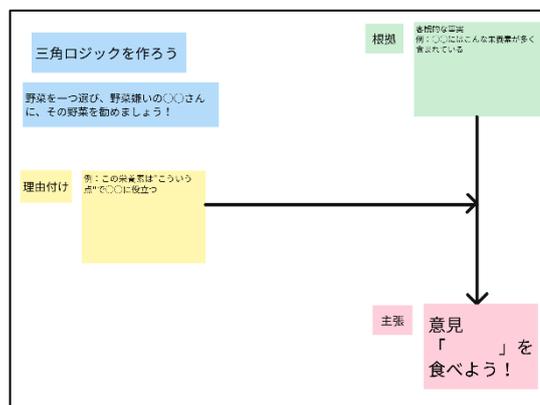
言語活動を行うにあたり、「根拠」「理由付け」「主張」の区別を付けやすくするために、身近な話題で練習をさせた（次頁図1・図2）。完成させた三角ロジックは、生徒間で共有させるとともに、提出された作品に対して指導者からもフィードバックを行った。「主張」と「根拠」を結び付けることに関しては大半の生徒が行えていたが、「理由付け」の具体性や独自性に課題があることが分かった。図1の課題においては、作るメニューとして「カレーライス」「シチュー」「肉じゃが」などが多く挙げられたが、「なぜシチューではなくてカレーライスなのか」など、そのメニューでなければならない理由を考えるよう

伝えた。図2の課題においては、テーマの「〇〇さん」にはクラス担任の名前を入れた。ある生徒が担任の特技を踏まえて「理由付け」をしていたので好例として紹介したところ、他の生徒も担任の普段の様子などから「理由付け」を考えるようになった。ここでは指導者側から例を示してしまっただが、内容を充実させるために必要な要素を考えたり、あえて不適切なロジックを示して修正させたりするなど、生徒自身に考えさせるような働きかけをすることで、同時に助言の視点を身に付けることにつながれたと考える。

【図1】



【図2】

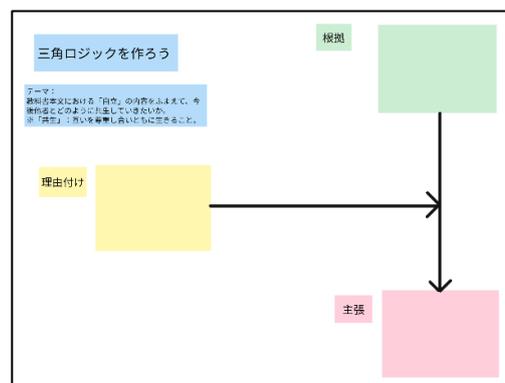


(2) 言語活動について

テーマを「教科書の本文における『自立』の内容を踏まえて、今後、他者とのどのように共生していきたいか。」と設定し（図3）、三角ロジックの「根拠」には2編の評論の共通項（『『できない』ことがないという人間はおらず、他者とのつながりの中で力を補い合いながら生きていくことが大切だ』という趣旨）を入れさせることとした。今回の活動においては、「他者の助言を経て修正する」という点を重視したため、まずは生徒それぞれの考えに基づいて記述させた。

その後、周囲の生徒3名とタブレットを交換し、ロイロノート上の相手のコメント用カードに直接コメントを書くという形で相互評価をさせた。「質問・助言のポイント」として、①主張が明確か、②本文の内容を踏まえて「根拠」が設定されているか、③「根拠—理由付け—主張」が適切に関連しているか、④内容が具体的か、という4点を示した。ロジックの内容に関する感想を書く生徒が一定数いた（例：自分の気持ちを正直に伝え合うことができるような関係を築くことは簡単ではないと思うけど、これから先お互いに意見を言い合える友達がいるともっといい関係になると思いました。）ため、再度論理に対する助言をするよう伝えた。感想を書く生徒はロジックも抽象度が高く、初稿の段階では主張自体が不明瞭なものが多かったので、ロジックに対する理解が不十分であったと考えられる。

【図3】



生徒の相互評価を経て、改めてロジックを修正し、提出させた。助言の多くは「具体性」の不足を指摘するもの、論理のつながりに触れるものであり、修正稿ではその指摘を受けて、特に「理由付け」の具体性が増したものがほとんどであった。一方で、論理の深まりという点では大きな変化が見られず、コメントにおいても「なぜこのように考えるか」などの質問の形はほぼなかった。指導者自身も具体性を意識するあまり、質的な深まりを促すような働きかけができなかった。初稿と修正稿との変化の質を考えたときに、「このような『主張』を述べるのはなぜか」「なぜこの『理由付け』が『主張』と『根拠』

を結び付けることになるのか」など、生徒自身が自分の考えを深掘りできるような問いを助言者から投げかけさせる必要性を実感することとなった。

(3) 評価について

他者からの助言を受けて修正したロジックを、「根拠—理由付け—主張」の関連性と具体性を確認し、「思考・判断・表現」の評価とした。以下、評価とその例を挙げる。

生徒Ⅰ

主張：違いを受け入れ、支え合い、認め合う

理由付け：ネットワークの中に自分を位置付けるためには他者との違いを理解し認めることで初めて助け合うことができるので、違いを受け入れ、支え、認め合うことは相手も自分も自立して、それが共生といえると思ったから。（下線部は授業者）

根拠：相互依存のネットワークをいつでも起動できること、自分をネットワーク化＝困ったときに助け合えるつながりの中に自分を位置付けることを自立としている。

特に「理由付け」において、本文にある「自立」の意味内容を解釈し、自分の価値観を示している（上記下線部）。また、それが主張と適切に結び付き、論理の一貫性を読み取ることができるため、関連性・具体性ともにA評価とした。

生徒Ⅱ

主張：いざというときに相手の力を借り、また相手が困っていたら今度は助けるという、互いに助け合う関係を大事にしたい。

理由付け：勉強面でも自分はこれができないからだめだと考えず、自分はこの問題が解けるけどこっちは解説を見ても分からない。でも相手はこっちの問題が解けるけどこの問題は解けないというときに、お互いに助け合えて理解できたので、重要だと思った。

根拠：「できる」「できない」を二分法的に考えずに、いざというときに他者の力を借り、互いに助け合えるネットワークをもつことが大切。

根拠と主張がほぼ同内容である。理解できなかった問題に対して知恵を提供し合うことで解くことができたという経験から、「他者の力を借り、互いに助け合えるネットワークをもつことが大切」という主張を導き出している。関連性・具体性は見られるが、できないことを補い合うことがどのような効果をもたらすか（例えば、可能性や興味関心の幅を広げるなど）という点に触れられておらず、説得力の点で不十分であり、B評価とした。

生徒Ⅲ

主張：お互いにコミュニケーションがたくさんとれる関係。

理由付け：コミュニケーションをとることでお互いの理解も深まるから。

根拠：いざというときに、助け合う相互依存のネットワークをいつでも起動できること。

「コミュニケーション」の必要性を主張しているが、それがなぜ必要か、や「コミュニケーションをとること」と「相互依存のネットワークをいつでも起動できること」とのつながりに関する記述が不足している。関連性・具体性がなく、C評価とした。

なお、今回のテーマにおいては、「根拠」とした本文の筆者の内容と生徒個人の「主張」との違いが表れにくく、「主張」の内容も似通ったものが多くなった。それを解消するために、例えば、本文の内容を三角ロジックの3要素で整理をして論の組み立て方を確認し、それを参考にして、設定したテーマに対して各自で論の材料を探し組み立てさせるというような活動にするというのも一つの方法である。

7 研究の成果と課題

(1) 生徒の相互評価について

相互評価では、複数人で助言をし合うことで助言の仕方や着眼点をまねることができ、最初は内容への感想だったものが、論理に関する助言になっていった。生徒の振り返りには「友人の助言で自分に足りていない説得力や具体性が分かって論理の改善につながった」「自分では理由付けをきちんと分かりやすいように書いたつもりでも、初めて見る人からしたら少し内容が薄かったりすることに気付いた」などの記述があった。助言の多くは「具体性」の不足を指摘する内容であったが、修正稿ではその指摘を受けて、特に「理由付け」の具体性が増したものがほとんどであった。また、他の生徒のロジックを見ることで、直接的な指摘はなくとも自分のロジックを客観的な視点で振り返り、よいと思ったところを取り入れて修正した生徒もいた。さらに、別の生徒は「主張の部分はすごく素敵だと思うけど、理由付けの部分が自分の意見が強すぎる気がする。同じ内容の文章でも言葉遣いや表現を変えてみるといいと思う」という助言を受けて、初稿ではやや攻撃的・限定的な表現を含んでいたものを修正稿では肯定的な表現に改善していた。この変化も相互評価を通して、自己のロジックを客観的に分析した結果であるといえよう。生徒同士で助言し合うことの重要性や効果を実感できた。

(2) 「論理の深まり」について

相互評価による一定の効果は見られたものの、上記6(2)でも述べたように、そこから「論理の深まり」につなげることができなかった。これを次の課題とし、質問(問い)に活動の焦点を絞り、「質問する力」の向上に取り組んでいきたい。「質問づくり」に関しては、他教科の学習や総合的な探究の時間における探究活動の充実にも欠かせないプロセスであるので、さまざまな学習に応用していくことができる。そうした視点をもってその学習活動を位置付けていきたい。

また、三角ロジックの元になっているS. トゥルミンの「対話的論証モデル」においては、「事実(本実践における『主張』)」「根拠」「論拠(本実践における『理由付け』)」に「反証」「裏付け」「限定」を加えた6つの要素が説得力のある議論をするために必要であると述べている。これらの要素についても考えていくことも、内容をより深めていく手がかりになると考える。

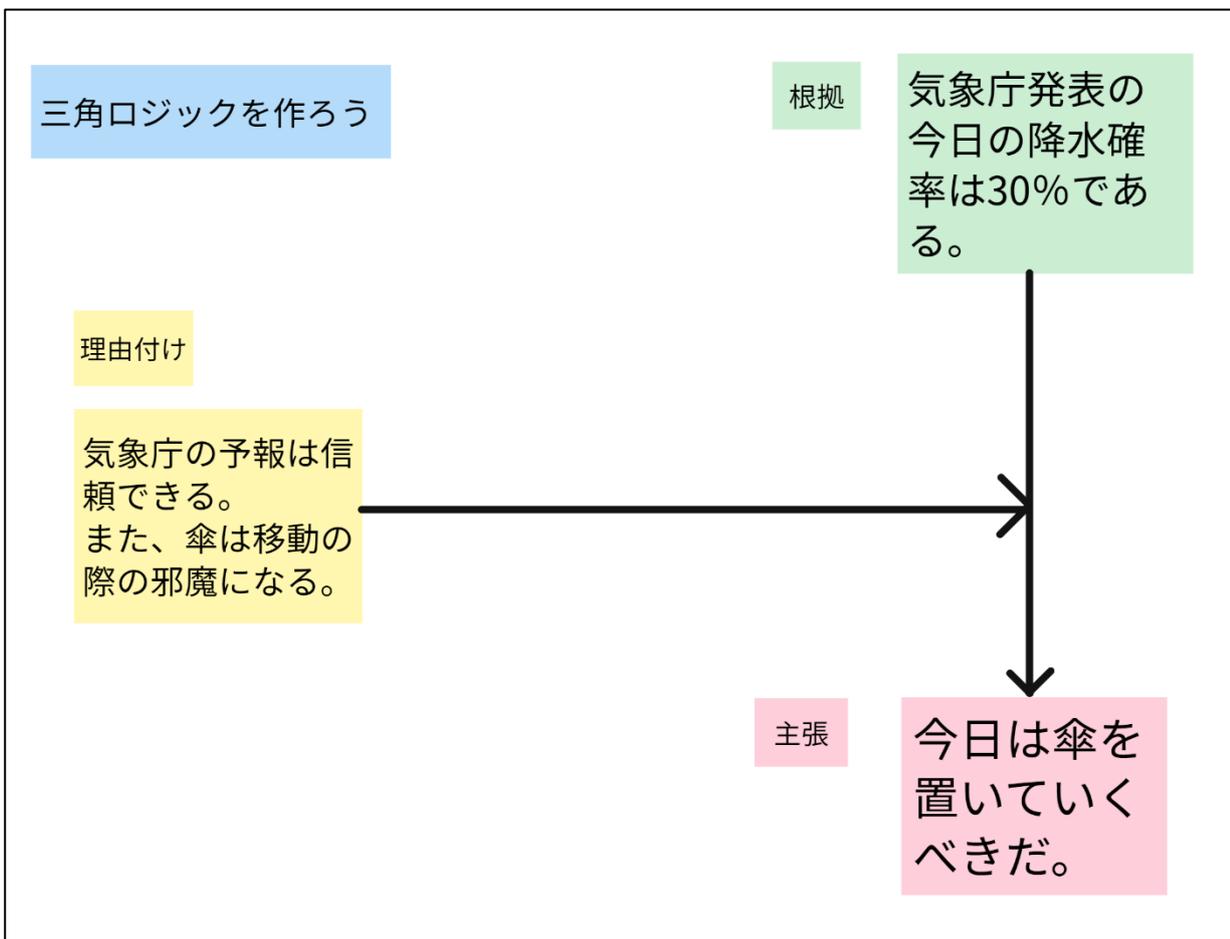
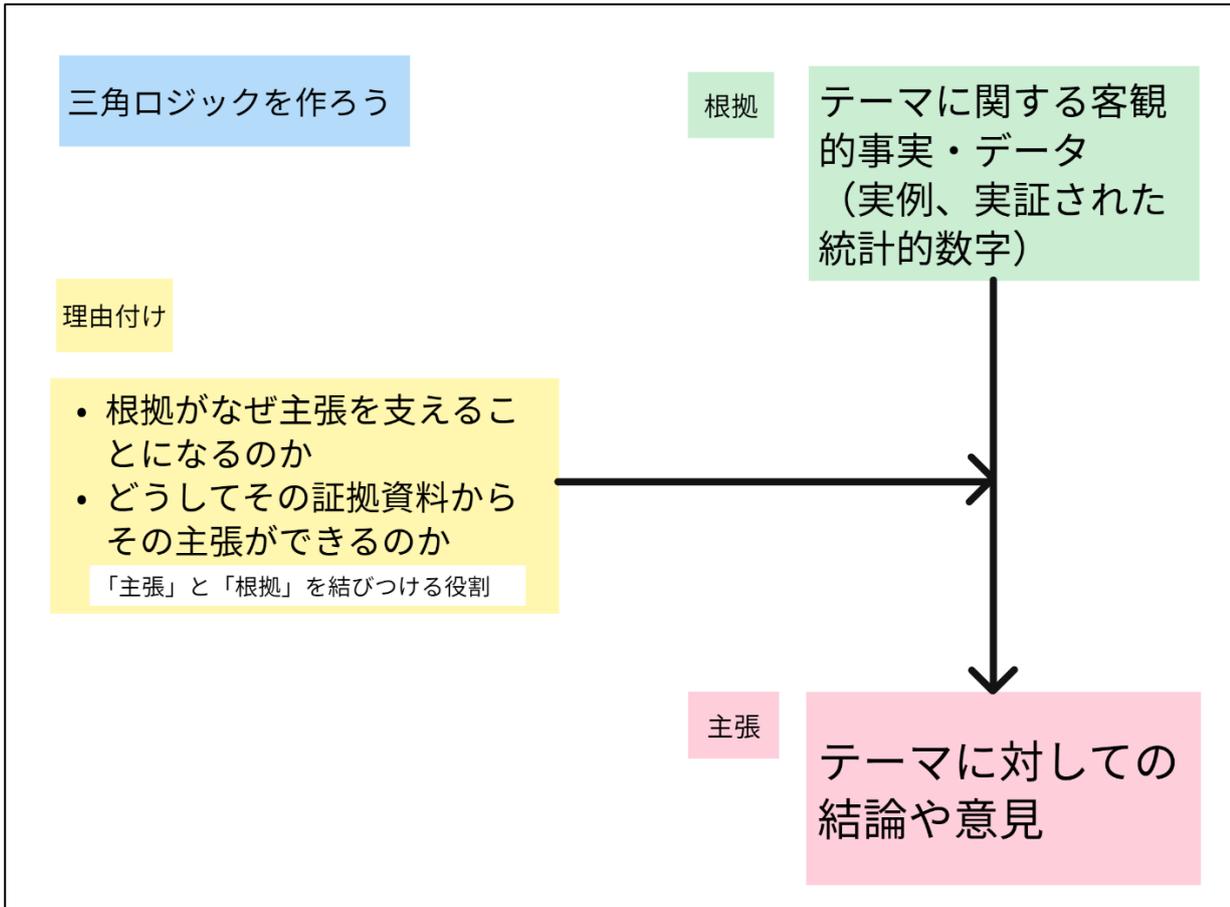
(3) ロジックの文章化について

第3次において、作成したロジックを基に、同テーマで300字程度の文章を書かせた。ロジックが構成メモ代わりになるため、書くための時間を15分程度に短縮することができた。文章化することでロジックの整合性を確認することにもつながられると分かった。しかし、ロジックを作成する意図の理解が不十分だった生徒も2割ほどおり、文章化されたものが構造化されておらず情報の羅列になっていたり、ロジックで位置付けた内容と文章における情報の役割にずれが起きていたりした。これについては、ロイロノートの「カード」という機能の特徴を生かし、ロジックで記入した内容を並べ替えてどう順序立てるのかを考えさせてみたり、記述の型や接続詞の使い方の例を授業者から示したりすることで、ロ

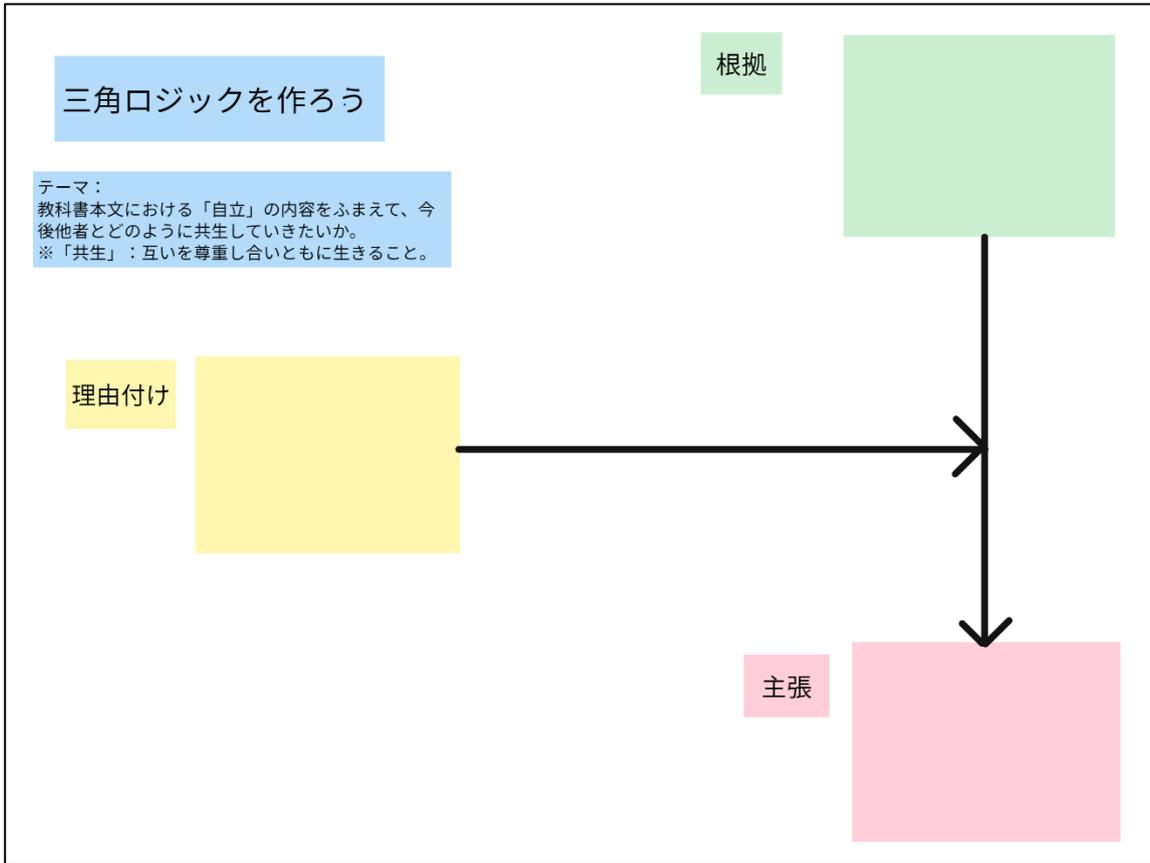
ジックで構築したものと文章とをスムーズにつなげることができ、ロジックを作成する効果も文章の記述に生かされると考える。

また、書き言葉と話し言葉が区別できていない、読点がなかったり不適切だったりする（特に、電子データの場合、傾向が顕著である）、自分の考えと筆者の意見が区別できない、など、「書くこと」の「知識・技能」の観点における課題も明確になり、文章化にあたって指導の段階の必要性を感じた。

三角ロジックは、小論文や志望理由書等を書くにあたって、書く材料の収集や整理に効果的である。今後もさまざまな場面で継続的にこの手法を取り入れ、より具体性と説得力のある文章を書く力を養っていきたい。



言語活動に使用したロイロノートのカード



アドバイスカード

() より

() より

() より

「三角ロジック」で構成した内容を、文章化しましょう。

例
私は、**主張**。なぜなら、**根拠**。
それは、**理由付け**である（ということがいえる）から、
主張である。

「『三角ロジック』を作って自分の意見を構成する」に取り組んでみて、思ったこと、感じたことを書いてください。